

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道362号 ^{おおはら やつ} 大原～谷津拡幅		事業区分	一般国道	事業主体	静岡県
起終点	自：静岡県静岡市大原 至：静岡県静岡市谷津				延長	4.3 km
事業概要	一般国道135号は、愛知県豊川市から静岡県静岡市に至る延長約157kmの主要な幹線道路であるほか、地域の産業や生活に欠くことの出来ない重要な路線である。大原～谷津拡幅は、一般国道362号の狭隘区間を解消し、安全で円滑な交通確保を目的とした延長4.3kmの2車線道路である。					
H1年度事業化	都市計画決定 (都計なし)		H1年度用地着手		H2年度工事着手	
全体事業費	約80億円		事業進捗率	84%	供用済延長	2.7 km
計画交通量	7,300台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.8 (残事業) 3.9	総費用：(残事業)/(事業全体) 16/104億円 (事業費：12/95億円 維持管理費：4/9億円)	総便益：(残事業)/(事業全体) 62/184億円 (走行時間短縮便益：62/181億円 走行費用減少便益：0/3億円 交通事故減少便益：0/0億円)	基準年：平成15年		
事業の効果等	・国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する） ・円滑なモビリティの確保（現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する） 他8項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	一般国道362号は、地域交流の促進等、生活基盤の骨格として重要な役割を果たすことが期待されており、天竜市をはじめとする関係4市6町の首長で構成される国道362号整備促進期成同盟会より早期整備の要望（平成15年8月19日）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	静岡市オムニバスタウン計画等公共交通機関への転換が求められるが、大型車両すれ違い困難が依然解消されず、円滑な交通確保への期待が高い。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成7年度までに谷津地区（L=1.7km）が完了し、引続き大原地区の整備を進めており、現在までに2.7kmを部分供用している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	大原第1トンネル（434m）を含むバイパス部の整備を進めるため、用地買収を実施しており、今後工事に着手し、早期供用完成を目指して事業を推進させる予定である。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法の導入や入札時VE等によるコスト縮減の可能性を勘案し、積極的に取り入れていく予定。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものである。